

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 9 No 03

9 2 号

平成13年 3月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

良い医者・病院の選び方

院長

当院の患者さんだけでなく、ホームページを見ている人に役に立つような、良い医者・病院の選び方について、考えてみましょう。当院が良い病院ということではないので、念のため。

先日NHKの「にんげんゆうゆう」という番組で、「良い医者はこうして探せ」というテーマで放映されていました。作家の下田治美さんが、御自身の動脈瘤の手術のために主治医を選んだ経緯が紹介されていました。

さて皆さんは、どんな理由で選んでいるのでしょうか。一番多い理由は、おそらく近いということでしょう。近いということは=便利(コンビニエンス)、ということになります。皆さんもよく知っているコンビニの語源は、コンビニエンス・ストアで、近くて便利が最大のセールスポイントです。品ぞろえも値段もほとんど同じであれば、わざわざ遠くのコンビニに行く人はいないはずで、病院も基本的に料金は同じなので、近くて便利ということが一つの選択の基準になるはずで、しかしコンビニでも、少しずつ特色を出すようになってきています。自由経済の競争の中では、同じという訳にはいかないでしょう。

もっと大切な選択の基準は、何なのでしょう。ホームページの医療相談に「A病院ではCと言われたけど、B病院ではDと言われましたが、どちらが正しいでしょうか」という質問が時々あります。このような質問の代表的な病気は、アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギーに関することがほとんどです。特にアトピー性皮膚炎では、診断の時から異なることもあります。軽い湿疹でもアトピーと病名をつける先生もいれば、ひどい湿疹でアレルギーが疑われる場合に初めて病名を付ける先生もいます。また検査も同じで、湿疹の患者全員にアレルギーの検査をする病院もあれば、厳密に選んで検査するところもあります。治療に関してはもっと、渾沌としています。極端な食事制限をする、抗アレルギー剤を使う、ステロイド軟膏を使うなど、

様々です。まして食事制限の程度、薬の種類、ステロイドの強さなどを比べれば、それこそ千差万別と言うことになります。このような違いが、先生によって答えが異なる理由なのです。違うことを言っているからといって、医師が嘘をつくことはまずないでしょう。どちらも、見方は違いますが真実なのです。しかしその言っていることのどちらが本当かを判断することは、患者さんにはなかなか難しいことなのです。医学的知識が無いことや先入観を持っていることが、判断できない原因になります。極端なことを言えば、アトピー性皮膚炎と確信している親御さんは、ただの湿疹の診断では満足(失礼!!)できないし、ステロイドという言葉にアレルギーを持っている人は子どもの苦痛を救ってくれる薬でも使いたくないものです。これは大人の世界でも時々あることで、癌を心配するあまり癌という診断でなければ納得しないことと同じです。という理由で医療相談の質問には、「どちらが正しいということはありません。医師によっても病気や治療法に関しては、少しづつ考え方が違うのです。どちらが正しいというより、むしろどちらの言っていることが信じられるかです。」と回答しているのです。

「良い医者はこうして探せ」の番組の中で下田さんが主治医を選ぶために、まず始めたのは情報の収集でした。動脈瘤の手術に関する様々な情報を手に入れ、情報の中に出てくる名前をリストアップし、その医師に直接質問をして一人を選んだということです。情報に出てくる有名な医師が必ずしも名医とは限らないこと、直接会ってそれぞれの医師の考え方を確認することが、とても大切なこととまとめてられました。当院では院内報やホームページで、医療に対する考え方や病気の対処法や治療法について情報として示してあります。しかし誰でも下田さんの様なわけには行かないし、どこでも当院のように情報の提供されているとは限りません。

それではその選択のためには、患者さんはどうしたらいいのでしょうか。まず親御さんも医学的なことについての知識を付けることが大切です。また母親という感情を捨てなるべく第三者的立場で、物事を判断することも大切なことかもしれません。そして医師からは病気や治療法について十分な説明を受け、納得できない場合は更なる説明を引きだしましょう。混んでいるからとか、話してくれなそうだからなどの理由を付けずに、お子さんのために疑問を解消する努力も必要です。そして、どの病院がお子さんに最も適切なのかを選択してあげましょう。病院はお母さんのためにかかるものではなく、お子さんのためにかかるものなのです。近くて便利な病院も大切ですが、薬と一緒に安心をもらえる病院を探すことはもっと大切なことでしょう。

3月のお知らせ

・午後臨時休診

3月9日(金) 3才児健診のため、
午後休診になります、

・栄養育児相談 栄養士担当

毎週水曜日 13:30~



読者の広場

先月戴いた投書や相談のメールは、総数で30件にも達しています。専用のメールアドレス、役立っているようです。携帯からは14件と増え、少しは利用しやすくなった感じです。まずは「開業8周年おめでとうございます」という題で大阪に転勤された菅原さんから、「2月20日は開業8周年ですよ。おめでとうございます!!。宮城野区から大阪に引っ越した菅原稜太と綾香のママです。仙台に居た時は大変お世話になりました。最後にお礼に伺いたかったのですが、引越し前に私がダウンしてしまい行けませんでした。すみません!!。今はインターネットでしか川村先生とあえず、淋しいです。。。年末は大変でした。でも、『先生に直接診てもらえるなんて、幸せなんでしょう。』と不謹慎にも思ってしまいました。ごめんなさい!。

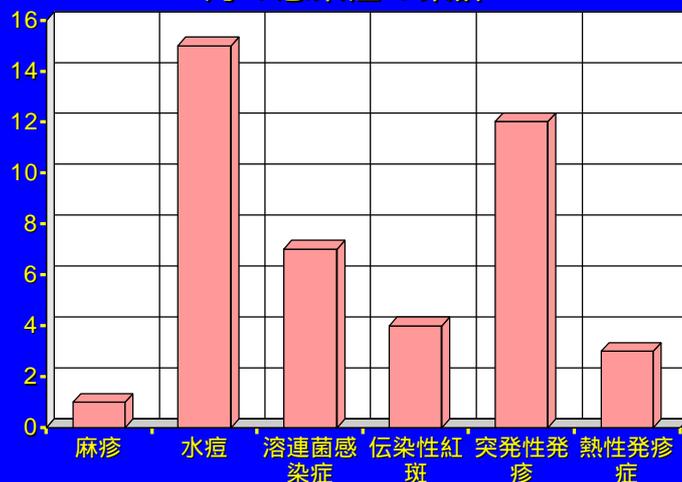


今稜太は扁桃炎と腸風邪で綾香は昨日39.7も熱が出ました。これから、近くの病院にいきます。その病院「あさいこどもクリニック」といいます。「かわむらこどもクリニック」に似てるのでそこにしました。それでは、先生お体に気をつけて、遠い大阪から先生のご活躍を祈ってます。」。開業記念日を覚えていただいて、本当にありがとうございました。次は千葉に引っ越した今村さんから「かわむら先生お久しぶりです。お元気ですか?。千葉に引っ越した今村綾子の母です。お陰様で、みんな元気です。いまのところ、おおきな風邪をひくこともなく過ごしています。先生のご家族は新年にたいへんでしたね。なんの、ご病気だったのでしょうか。12月に大きなマンションに越しました。(部屋が大きいわけではありません)世帯数が多いので、子供の数も多いようです。「キッズハウス」といって、子供を遊ばせる施設もあります。そこに行くと、すぐお友達ができます。(一部省略)ママ友達が多いと情報も多いし、うれしいです。いろんなこと、一人で悩むこともないし。こういうふうに、ママ同士がお友達になると、虐待もなくなると思うのですが……。一人で子育てって、つらいですよ。マンションのお友達がメールで、子供がちょっと具合が悪いということなので、前にかわむら先生から教わったことを教えてあげました。先生、千葉でも大活躍です!!。今村節子」。転居したあとこのようなメール頂くことは、ありがたいことです。かわむらこどもクリニックの患者さんは、いつまでも当院の患者さんなのです。続いて仙台組からのメールも紹介します。「初メールします。みゆなの母です。毎週先生、看護婦さん方には、お世話になっています。我が家も、昨年パソコンを購入して、みんなで勉強中です。先生のホームページ、色々なことが載っていて全国いろんな方々から意見、相談がくるんですね。毎月頂くクリニックニュースで、知ってはいたけど、いざ自分で先生のホームページをみて、驚き、感激、でした……。みゆなも、あれから大分落ち着いています。鼻水もだんだら出なくなってきたし、咳もそんなにひどくないので吸入もしてません。一安心です。私達が、仙台に越してきて三年目、かわむらこどもクリニックにはみゆのことですとお世話になっています。精神的にもずいぶん助けられました。いつもニコニコ笑顔で対応してくれる中米さんはじめスタッフの方々のことも、親子共々大好きです。みゆも12日で三歳。少しずついいから、体を丈夫にして「あら?久しぶり。今日は注射ね。」くらい言われる様にしたいです。今日はどうしても初メールがしくて送ってしまいました。(忙しいのにすいません)先生も大変でしょうが、体に気をつけて頑張ってください。父と同じ年なので、かさねてしまいました……。それでは、来週また病院で。おやすみなさい。」。クリニックには皆さん、仕方なく(中には楽しみの人があるかもしれません)来るのです。ほんとは小生も、「久しぶり、今日は注射だね」となりたいところです。お父さんと同じ年ですか、そんな年になってしまったのですね。もうすでに設置してあるのですが、クリニックの待合室から常時接続で、当院のホームページが見れるようになります。今少し忙しいので、もう少し落ち着いたら始めたいと思っています。乞う、御期待!!

かわむらこどもクリニック患者専用アドレス patient@kodomo-clinic.or.jp (携帯からでも可)

i - MODE 小児科ミニ知識 <http://www.kodomo-clinic.or.jp/imode/iwill.html>

2月の感染症の集計



麻疹が1人でした。感染症情報では、県北部でかなり流行しているようです。かかると重症な病気です。早めに予防接種を受けてください。水痘と溶連菌感染症が目立ちます。このグラフには載せていませんが、2月17日に初めてインフルエンザと確定された患者さんができました。半月で50人程度ですので、大流行ではなさそうです。他にも、嘔吐下痢症や高熱が続く風邪(アデノウイルスと思われる?)が目立っています。

編集後記

このところ患者さんの数の数が、べらぼうに多いわけではないのですが、点滴や検査で時間がかかってしまい、毎日やっと思食がとれる程度です。インフルエンザも、一役買っているようです。春一番が吹いたところもあるので、早く暖かい季節と忙しくない診療を待ち望んでいる。そんな、今日この頃です。

